

## 豊田直巳(とよだなおみ)のプロフィール

1956年、静岡県生まれ。1983年よりパレスチナやアジア、旧ユーゴスラビアなどの紛争地をめぐり、そこに暮らす人々の日常を取材。1999年以降、度々イラクを訪れ、戦争と劣化ウラン被害を取材。またウラン兵器を使用した側の米・英軍の帰還兵、バルカンなどに派遣されて被曝したイタリアの帰還兵の取材にも取り組む。2003年、平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞。日本ビジュアルジャーナリスト協会(JVJA)会員。

### 著書・写真集:

『戦争を止めたい フォトジャーナリストの見る世界』(岩波書店)、『子どもたちが生きる世界はいま』(七つ森書館)、『イラク 爆撃と占領の日々』(岩波書店) など多数。

### 近年の主な写真展:

2007年:4月:アウシュヴィッツ平和博物館(福島県白河市)/5月:ヨーロッパ連合議会議事堂展(ブリュッセル・ベルギー)/6月:立命館大学展(京都府京都市)/9月:フィンランド国会展(ヘルシンキ・フィンランド)  
2008年:1月:東京外国語大学ホール(東京都調布市)/8月:三鷹市役所1F市民ホール(東京都三鷹市)  
2009年:2月:スコットランド議事堂展(エジンバラ・スコットランド)/5月:京都大学展(京都府京都市)/6月:ベルギー国会議事堂展(ブリュッセル・ベルギー)

## 新たなヒバクシャを生み出しているウラン兵器

核兵器や原発の燃料を製造する際に出る、核廃棄物「劣化ウラン」を用いた兵器＝ウラン兵器が、イラクやバルカンなどの戦争で大量に使われました。

戦車などの固い標的に当たった劣化ウラン弾は、高熱を発生して燃え上がり、戦車の装甲を焼きながら貫通します。燃え上がった劣化ウランは、細かい粒子(1ミリの千分の1よりも小さい)となり、ばらまかれ、環境を汚染します。そして、戦場の兵士のみならず、周辺で暮らす一般市民もまた、ウランの微粒子を吸い込んだりして身体に取り込み、体内から被曝します。汚染と被曝は、戦争が終わっても長期にわたって続きます。ウラン兵器は核兵器(＝核エネルギーを破壊力に用いる兵器)ではありませんが、核兵器と同じく放射能汚染をもたらす、新たなヒバクシャを生み出しているのです。

劣化ウランは、放射性毒性だけでなく、重金属としての化学毒性もあり、がんをはじめ、健康へ様々な有害作用を及ぼすことが動物実験などで、すでに明らかになっています。イラクなど、ウラン兵器が使われた地域の医師らは、住民のがんや白血病の増加、先天障害の増加などを報告し、戦争による環境破壊、その中でも重大な原因として劣化ウラン汚染を訴えています。



劣化ウラン弾に当たり、汚染した戦車がパン屋の店先に。  
[イラク、マハムディーヤ、2003年4月]



バスラの病院で。むずかる白血病の娘をあやす母親。  
[2002年12月]

ウラン兵器は、地雷やクラスター爆弾と同じく、国際人道・人権法に反する「非人道的無差別殺傷兵器」です。ウラン兵器を禁止し、被害者を支援する国際条約締結をめざす、世界の草の根ネットワーク「ウラン兵器禁止を求める国際連合」(ICBUW)が2003年に結成され、活動を続けています。(現在29カ国の120団体が賛同。)

写真展は、ICBUWが全世界に呼びかけている「ウラン兵器禁止国際共同行動デー」の関連企画です。下記シンポジウムにも、ぜひご参加下さい。

### －ウラン兵器禁止国際共同行動デー in 大阪－ シンポジウム「非人道的兵器の禁止に向けて」

～クラスター爆弾禁止からウラン兵器禁止へ！

日時:11月15日(日)午後2～5時、場所:エルおおさか[5階/研修室2]

パネリスト:目加田説子(JCBL運営委員,中央大学総合政策学部教授) 林明仁(JCBL運営委員) 豊田直巳(フォトジャーナリスト) 振津かつみ(ICBUW運営委員)

共催:ウラン兵器禁止を求める国際連合[ICBUW]ジャパン・関西  
地雷廃絶日本キャンペーン[JCBL]